

## 令和4年度 第2回 ひのみね支援学校学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和4年12月9日(金) 13:00~14:30

2 場 所 ひのみね支援学校 図書室

3 会 議 (参加委員10名)

(1) 学校長挨拶

(2) 授業参観及び授業等に関する意見交換

2グループに分かれて授業参観。参観後には、

- ・教員のバイタリティがすごいと感じた。
- ・支援学校の教員による事件が気になっている。教員の負担やメンタルヘルスなどについて心配。どのように対応しているのか。
- ・コロナ禍での分散授業等でリスク回避をすることも大切だが、子どもたちができたことを情報共有できているのか。関わっていない教員も知ること、子どもたちを褒めて伸ばすようにしていくことが大切。
- ・校内に掲示されている作品が素晴らしい。絵を描くことについていろいろな工夫があることを知れた。いろいろなところで発表してほしい。また、作品の制作過程が分かるような動画などをHPに載せるとよいと思う。障がいの有無に関係なくアート活動はできる。是非、取組の発信を。などの意見が出され、意見交換を行った。

(3) 協議

①協議の柱について

「本校の魅力とその発信について」を協議の柱とし、「専門性の維持向上」「ひのみね総合療育センターとの連携協働」「本校の児童生徒が持つ伝える力」の3点について学校長より説明を行う。

<各委員からの意見>

- ・子どもたちの現状を正しく知ってもらうことが大切。SNS等のメディアをうまく活用していくとよい。世界に向けて発信していくことが学校の役割になってくるのではと思う。大学が協力することも可能である。
- ・研修会や体験的な活動を通して、地域の人たちと繋がっていくことができればよいと思う。人の理解や協力を得られるようなアプローチをしていけばよい。交流をしながら、車いすのことを知ってもらったり、一緒に活動することが大切。
- ・肢体不自由のことを知ってもらうふれあいの場が大切。だが、保護者がどのように思っているのかを知っておくことが大切。自分の町に根付いたことで、地域の一員と繋がれる。そこから発信していけばよいのでは。
- ・児童生徒と教員の距離が近く、温かい関係ができていると感じた。人の温もりが感じられることが魅力であると思う。
- ・子どもたちがいい表情をしている。リモートでの新しい発信もできればよいのでは。
- ・一人一人の子どもをよく見て大切にしている。得意・不得意を見極め、教材の工夫がされている。このことを外へ発信していけばよい。小松島に「ひのみね支援学校」があることを伝えていく。

- ・距離も心も近い授業実践がされている。その分、教職員の負担も考えていくことが必要であると思う。発信については、HPだけでなくSNSの活用が有効である。ありのままを見てもらって、理解を深めていくこともできるのでは。
- ・ひとつひとつを大切にしていることが魅力だと感じた。JA東とくしまとしては、エシカル活動に継続して協力したい。また、あいさい広場を車いすで利用する人にやさしい売り場にしたいので、意見を聞きたい。市民農園での連携もできるのではと思う。あいさい広場はネットワーク環境が整っているので活用を。
- ・肢体不自由の方がどのような生活・学習をしているのか、広く社会に知ってもらえるよう発信を。  
などたくさんの示唆をいただいた。

#### (4) その他（事務連絡）

- ・やまなみ珈琲店で行っている作品展「ひのみねからの発信」について案内
- ・第3回の予定について